



待降節第 2 主日 (ルカ 3:1-6)

すべてに始まりを与えてくださる神

待降節第 2 主日は洗礼者ヨハネが活動を始める様子を描きます。田平教会でも同じ始まり方で 3 回話しているので、そろそろ皆さんも覚えてくれていると思います。ただ今年は、洗礼者ヨハネに焦点を当てるのではなく、洗礼者ヨハネを活動へと駆り立てた「神の言葉」に注目したいと思います。

洗礼者ヨハネのおかげで、イエスの宣教活動の地ならしができたことは確かです。彼が授けていた悔い改めの洗礼は、当時ユダヤ人たちが行っていた身を洗い清める儀式と違う新しさがありました。当時のユダヤ人たちが行っていた儀式は、毎日身を洗い、清められていくと考えていました。

一方ヨハネが授けていた悔い改めの洗礼は、一度だけ受ける儀式だったようです。今の洗礼がそうであるように、一度悔い改めの洗礼を受け、繰り返す儀式とは考えていませんでした。そういう意味で彼は先駆者です。

ではヨハネは「先駆者になるぞ」と思って悔い改めの洗礼を宣べ伝えたのでしょうか。決してそうではなかったと思います。一度限りの、決定的な洗礼を授けてくださるお方に、道を整える。そのことだけを考えていました。

ヨハネは自ら意識して「私が始まりだ」とは思っていませんでした。けれども彼は先駆者です。すると彼に先駆者の役割を与え方がいるはずです。それは、父なる神でした。ですから今日の場面は、神がヨハネに先駆者の役割を与えて活動させたという、新しい時代の始まりに関する父なる神の物語なのです。

今日の洗礼者ヨハネの活動のように、新しい形の始まり、新しい時代の始まりを神様が与えてくださるさまを、私たちは捉えたことがあるのでしょうか。ここにおられる皆さんはたしかに経験済みです。私たちの教会の百年を祝うために、長く一つの祈りを唱えてきました。「田平教会献堂百周年の祈り」です。祈りの第一声は何だったのでしょうか。「すべてに始まりを与えてくださる全能の神よ」でした。

この教会の建設に、中田藤吉神父様が先頭に立ってくださいました。中田神父様の呼びかけに、田平の神の民はすべて惜しまずに協力しました。ただし始まりを与えてくださったのは、父なる神、全能の神だったわけですね。

私たちはあの祈りを二百回、三百回と唱えて何を学んだのでしょうか。それは、神様が私たちの教会の始まりを与えてくださったということです。始まりを与えていただいて、百年の歴史を紡いできました。この歴史の糸をさらに紡いでいくためには何が必要でしょうか。私は百周年の記念誌に、「縄をなう働き」をたとえに話しました。縄を伸ばしていくためには、少しずつ藁を継ぎ足していく必要があるのです。

洗礼者ヨハネは、決定的な救い主、それはイエス・キリストですが、この方をふさわしく準備するように、人々を悔い改めへと導きました。彼は与えられた時間で、イエス・キリストにつながる人を少し継ぎ足したのです。決して、全世界に行ったのではありません。少し、藁を継ぎ足したのです。

これが私たちの今週の学びだと思います。父なる神は、洗礼者ヨハネを通して、当時新しい時代の始まりを与えてくださいました。父なる神の招きに答えて、ヨハネは歴史の縄をなうのに必要な人々を継ぎ足してくれました。

私たちの時代にも、歴史の縄をなう人々が必要です。一度に百人も二百人も必要なわけではありません。一人とか二人、田平教会の歴史の縄を伸ばしていく人が必要なのです。そのためには働きかけが必要で、働きかけの始まりを与えてくださるのは常に父なる神です。神が私たちに始まりを与えてくださるのですから、私たちは自分のできることで、呼びかけにこたえる必要があります。

洗礼者ヨハネは、「荒れ野で叫ぶ声」となって呼びかけに答えてくれました。では私は、どのように答えたらよいのでしょうか。私たち田平教会の歴史の縄を紡いでいく藁は、どこから手に入れたらよいのでしょうか。家族の信仰の歴史の縄を紡いでいく藁を、どのように確保したらよいのでしょうか。

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」(3・4) 私たちの教会に始まりを与えてくださる全能の神が、呼びかけの応答を待っておられます。

待降節第3主日(ルカ 3:10-18)